

## 【朝鮮植民地と映像】

映像作品一挙公開 ◎一般参加歓迎

- 日本の映画界や人類学・民俗学が、植民地時代の映像に目を向け、検証することはそれほど多くなかった。日本映像民俗学の会第28回大会では、植民地36年の映像と、植民地と真摯に向き合った戦後60年間の映像作品を一同に集め、問い検証する。日韓の研究者と合同で、シンポジウムを開催する。



期日：平成18年2月11日（土）～12日（日）

会場：東亜大学13202号館主催：日本映像民俗学の会

後援：東亜大学

協賛：山口県映画センター 下関韓国教育院 釜山地域日本研究会

参加費：500円

第1日 2月11日（土）

○10:00～12:20分 特別上映 司会：多比良健夫

牛山純一『あの涙を忘れない～日本が朝鮮を支配した36年間』90分

解説：康浩郎（会員：映像作家） レスポンス：原田環（広島県立大教授）

○ジャン・ルーシュ『狂気の主人公たち』（1954年）28分（牛島巖訳）

解説：大森康宏（国立民俗学博物館教授）

13:00 受付

司会：亘 純吉

- 13:30~13:45 挨拶：代表 **牛島巖**  
祝辞：東亜大学学長 **中沢淳**、下関教育院長 **李永松**
- 13:45~15:00 特集Ⅰ：朝鮮植民地時代の映像 解説：崔吉城  
渋沢敬三「**多島海探訪記**」(1936年) 28分  
宮本馨太郎「**朝鮮蔚山の農村習俗**」(1936年) 15分  
千葉映画製作所「**朝鮮地方**」(小学校地理映画体系11) 11分  
製作者不明「**TYOSEN**」(1938年) 13分
- 15:05~15:50 **崔吉城・北村皆雄・三浦庸子**  
レスポンス：崔仁宅(東亜大学校教授)  
「**韓国巨文島47年目のにつぼん村~知られざる漁民移住史**」(1992年) 45分
- 16:00~16:45 ドイツ宣教師の見た「**静かな朝の国：朝鮮**」(1925年)  
レスポンス：金泰昌(将来研究所所長)
- 16:50~17:40 基調講演：崔吉城(東亜大学教授)  
「**朝鮮植民地映画の映像分析**」
- 17:50~18:50 映像+講演：李文雄(ソウル大学人類学科教授)  
「**ソウル大所蔵の秋葉隆のガラス乾板写真から見た1930年代の韓国**」
- 19:15~21:15 **懇親会**

**第2日 2月12日(日)** 司会：多比良健夫

- 9:00~9:50 総会 (会員のみ)
- 10:00~12:15 会員作品特別上映 **孝寿聡監督 桜庭美保撮影**  
解説：孝寿聡  
映画「**水筒と飯盒~ビルマ戦線戦場の記憶**」(1時間54分)

◎昼食 12:15~ 13:15

**特集Ⅱ：植民地映画の展開**

- 13:20~14:10 ラブレントリー・ソン「**校長先生**」(1999年) 40分  
解説：岡田一男
- 14:10~ 15:20 村上雅通「**流転~追放の高麗人と日本のメロディー**」  
(2004) 57分 解説：村上雅道
- 15:20~16:20 崔吉城・北村皆雄「**サハリン日本人妻の別れ**」(2000年) 60分
- 16:30~17:50 シンポジウム「**植民地を捉えた映像から何を読むか**」  
司会：牛島巖  
岡田一男、大森康宏、康浩郎、村上雅通、張竜傑、朴晋雨、李文雄、北村皆雄、孝寿聡 他
- 18:00 **解散**

**日本映像民俗学の会**

〒160-0014 東京都新宿区内藤町1-10 テラス小黑 201

☎ 03-3352-2291 FAX 03-3352-2293 e-mail: [info@jefs.org](mailto:info@jefs.org)

## <作品解説>

### 『あの涙を忘れない～日本が朝鮮を支配した 36 年間』

(1989 年民間放送連盟賞報道部門最優賞)

牛山純一は、1966 年に放送開始された『すばらしい世界旅行』のプロデューサーとして、24 年間にわたり、一貫した現場主義のもとに 1000 本以上のテレビ番組を産みだしていきました。これはその中の作品で植民地の歴史の現場を検証した貴重な映像である。

1989 年に終戦特集番組として、『あの涙を忘れない～日本が朝鮮を支配した 36 年間』をドキュメンタリーとして制作し、民間放送連盟賞報道部門最優賞を受賞した。牛山は直接現場を歩きながらインタビューをした。この映像で注目されるのは 1919 年 3 月 1 日独立運動の時朝鮮制圧のために悪名高い佐坂氏を追跡してインタビューし、それを韓国人被害者家族に見せて許してもらおうという、日韓の和解をみせて、感動をさそう。

### ジャン・ルーシュ『狂気の主人公たち』

1920 年代から 50 年代に、西アフリカで広まった憑依儀礼の映像。植民地時代の抑圧された中で働く人たちがトランス状態となって、主人であるヨーロッパ人に偽装する儀式。

### 洪沢敬三「多島海探訪記」

調査の参加者は秋葉隆、桜田勝徳、村上清文、高橋文太郎、小川徹、宮本馨太郎、磯貝勇。映像は下記の順である。

木浦から金剛丸で出発し、背広を着た人々が調査団員を歓送する。黒い傘、タバコ販売所の看板、白い服を着た老人などがバックグラウンドとして映っている。船は汽笛を鳴らしながら走る。機関室、操縦室、船員たち、調査員たち、船上食堂が見える。

鎮島の全景が見えた。下船して村に入っていく。畑の中に木像(장승)がある。麦わら、わら葺き屋根、仕事をする女子、屋根上のかぼちゃ、祭祀の時水ご飯を込めて置いたもの、ひき臼(맷돌)、味噌瓶置き場(장독대)、お膳、いしもち(조기)、砥石で研ぎ、屋根、洗濯物干し、渡船、ひよこ。農家訪問、喪庁(상청)、綱、裸の子供、壺を頭に載せた女性、わら葺き屋根、イカリ、石臼(돌절구)、白いコメ、ボンクラ船(멍텅구리 배:海老を捕る)、麦藁帽子、ロープ、下駄、ゴム靴、干し魚、普通学校の校長、長靴を履いた人、履き物、リュックサックを背負っている人、注連縄(금줄)を張っている家。策(소쿠리)、筵(명석)、かま(솥)、台所、甕(독)、馬、井戸、鍬(□□)、見送りの人々が 20 余名、獣骨、豚、魚干し、ご飯と匙、畑で仕事をする女性、小さな船を陸地に引き上げ、木の槌竿で脱穀、風に麦殻を飛ばす、釣り、莞草(□□)を整える、コニ(□□)遊び、村の全景、波市、料理、韓国民族衣裳の女性、子供、「通行禁止、伝染注意」という表示が見える。コレラが流行したこと、食べ物、果物、生魚、危険物、離別パーティー、記念撮影など。

### 宮本馨太郎作「蔚山達里農楽」

宮本氏は韓国蔚山達里の農村風景、生活、農楽などを撮影した。カメラをそのまま回すのではなくて編集するように撮った。順序は総じて村の表示物、村の全景そして民具を使用する方法を撮っている。

円衫に簇頭里を被った新婦、虎皮を覆った御輿(가마)、洋服を着た男子、白い外套で中折帽、日傘をさした女性、礼段を頭に載せた女子、編み髪頭と髪編み結び、木の槌竿で脱穀、わら葺き屋根、洗濯物干しの紐(빨래줄)、チゲ(지게背負い)、わら結び、麦藁帽子、木の槌竿で脱穀、ポプラ樹、熊手(넉가래)、風に殻を飛ばす、頭に水壺を載せた女性、瓦葺き屋根の家、木の槌竿で脱穀。母牛と小牛。牧童と蓑(우장)、畑に苗木植え、ポプラ街路樹が見える野原、子供を負

んぶした女性, 瓦の家とわら家, 編み笠を被った女性(머리 띠 여자)。

リズムカルな木の槌竿で脱穀, 髪編みの女子が水汲む, つるべ(두레박)、井戸、木の槌竿で脱穀, 風に殻を飛ばす二人の男子, 広い原野と畑, 街路樹, 新作路の内側で 20 余名の女性が集まって洗濯, 髪を洗う, 籠が付いた背負い荷物, 手拭いを巻いた女性, 下半身裸の子供, 髪編みの処女, 洗濯物の籠。ゴム靴、どぶろく(막걸리)を回す, 酒甕, 筵席, 肩掛けベルトの青年, 乾いた干し明太を食べる、

「達里」の農旗が見える。銅鑼, 小鼓(2ヶ), 15人が入り乱れて踊り, 頭に物を載せて行く女性, 木の槌竿で脱穀, 麦わらを縛る男子, 土底に丸い円を描いた絵, 6名の子供がお手玉遊び(공기)。人形, おもちゃの船。風に麦殻を飛ばす女性, 髪を洗って櫛で髪を梳かす幼い女子, 瀬戸物をメッキした洗面器, 斗(말), 井戸の周り, 籠が付いた背負い荷物(조개발 지게), つるべ, バケツ(取っ手が付いた), 豆の種まき, 女子下着(고쟁이)。木の槌竿で脱穀(도리깨질)。手拭いを巻いた男子が打ち脱穀(태질)をする, 篩をする。髪編んだ女子と手拭いを巻いた女子が河川で洗濯。牛と小牛など 10 余頭, 井戸の周り。木橋(나무다리)、市場, 現代式建物, 電信柱と電線、黒笠(갓)を被った老人、穴をあける, ゴザを乗せた自転車, 洋装して和風下駄を履いた女子。女性のキセル、穀物, 紙傘, 唐辛子, 傘の修理, 頭にはちまき, ゴム靴(고무신)の修理など。

### 千葉映画製作所「朝鮮地方」

東日本/大阪毎日新聞社、小学校地理映画大系の第 11 篇。全日本映画教育研究会監修, 千葉映画製作所が製作、小学校教育映画調査委員会が指導下であった。

大型蒸気船。「朝鮮地方」という題名。客の下船。中折帽を被った紳士, キモノを着た女性が出てきている。蒸気機関車そばに白服を着てツエを持ったおばあさんとチゲの男性が歩く、15名の若い男性らが除草器で草取り。女学生らが鎌でいねを刈る。

「農業は朝鮮一番の産業」。屋根上にカボチャ、水車。棉畑の花を摘む。高麗人参をホミで用心深く掘る。「人蔘」タバコ畑, タバコ葉の乾燥, 機械で巻く製造過程。

「農産物の集散地大邱では春秋 2 回大市が開く」。タバコ商売, 昼食。

8 両列車がソウルへ向かって走る。〈京城(KEIJO)〉。「旧来の市街も改修なって面目を一新した。朝鮮の首都-京城」。京城駅, 朝鮮総督府庁舎, 慶會楼。南大門。自動車は 2 台, 自転車, 背広を着た姿と民族衣裳の人々。市街地。大きい煙突。「京城の門戸をなしている仁川港」。

「北西部には諸所に鉱山がある」露天鉄鉱産が 4, 5 層。「石炭」水圧運搬車、「砂金」, 海底から砂を掘って上に運ぶ。

「兼一浦」。煙突。「半島第一の勝地-金剛山」海金剛, 滝, 岩刻などが見える。岩刻文字。鴨緑江の水豊発電所、「鴨緑江支流を逆流させて建設された東洋第一の大発電所-松興」

「この電力で咸興の工業は将来を期待させている」発電所の遠景, 油タンク, 「鴨緑江上流 千古の大森林は」樺, 材木, 製材所, パルプ工場, 開閉式鴨緑江鉄橋, 帆船。「新義州」木材を河上に浮かした。鴨緑江鉄橋を汽車が通過。そばの歩道には 5-6 名の女性。羅津、清津とウラジオストック, 「国際的に重要な位置を占める清津港」。地図上に〈シベリア〉, 〈ウラジオストック〉, 〈日本〉, 〈羅津〉, 〈清津〉。「朝鮮地方終」

### 製作者不明「TYOSEN」

初めて We are now Tyosen から始まる。トーキーが英語である。金剛山神溪寺頭版, 大雄殿の尖塔が見える。慶州仏国寺の全景, 仏国寺の階段と欄干, 吐含山の石窟庵, 中へ入って仏像の彫刻美に感嘆。長い歴史にもかかわらず変わらずにいる。石窟庵の前建物は無い, 入口が洞窟のように見えた。仏像額には宝石。

洗濯する場面。お嬢さんが笑う表情, 小学生のラジオ体操, 4 人の女性が清潔な民族衣裳を着て歩いていく。出産家の前に注連縄を張った家の前に座った老人が子供の出生を喜ぶ表情でなんと話す。リズムカルに砧打ち(다듬이질)する, わら葺き家, 実ったいねの田, 汽車が走る。車内風景, ソファーに座った民族衣裳, キモノを着た日本人女性, 汽車が走る場面が消えながら朝鮮地図が出てきて釜山から豆満江、鴨緑江まで, 全羅道順天からソウルまで, 黄海からの鉄道、東京から満州に通じる線を引く。そして航路が出てくる。釜山から元山、清津、羅津等へ咸鏡道, 全

羅道から仁川、大連、上海、平壤から中国へ通じる航路が出てくる。韓半島の地図上に白い円で都市の大きさを表して KEIJYO というソウルが表示される。南大門、北岳山と共に朝鮮総督府庁舎と朝鮮ホテルが見える。朝鮮神宮の屋根が見えて、階段を上る入口に鳥居と階段などが見える。その前で制服を着た女学生 2 列横隊で 16 人が先生の指導下に参拝する。朝鮮ホテルから見たソウル市の景色。八角亭、読書する女性、国語と漢文、慶會樓の軒から見上げた北岳山。中和門を入っていくと石造殿、中華門で女性たちの弓射、板跳び。2 人の男性と三人の女性が並んで立って弓を打つ。

朝鮮式家で庭園、本を読むおじいさん、味噌瓶置き場。2 人の女性が臼をひく。子供の顔、キセルに火を付ける、将棋。老人がキーセンらに囲まれている。大同江船遊び、船遊び船が遠く離れる場面が消えて、青い空と雲を背景に 長衫を着た女性が僧舞を踊る。鴨緑江橋を走る汽車の姿で TYOSEN END となる。

### 「韓国巨文島 47 年目のにつぼん村～知られざる漁民移住史～」

もともと無人島であった韓国多島海の小島に山口県豊浦湯玉の木村忠太郎氏が中心に、多くの日本人が移住して、金比羅神社、郵便局、小学校、警察支所、旅館、魚市場、寺、医院など、一から村を作って終戦まで住んでいた。敗戦後その村を離れた人たちが 47 年ぶりに生まれ故郷を訪ねる。その波紋をドキュメントした作品。ほとんどの日本人に知られていない日本現代史の記録である。老年、中年、小学生の日本に対するインタビューに、複雑な思いがからみ合って興味深い。



木村忠太郎(左)

### 「静かな朝の国：朝鮮」

ドイツミュンヘン St. Ottilien 教会の宣教師ノベルト・ベバー Nobert Weber が 1925 年撮影した、韓国で最初のドキュメンタリーである。その教会を中心に周りにはゲストハウス、博物館、古文書館、幼稚園、食堂、書店、ギャラリー、聖職者宿舎などがあり、村のセンターとなっている。博物館には韓国や日本風にイエスや聖母マリア像を書いた屏風、ハンゲル書きの手紙、など書類、写真、地図、当時の科学の教科書、衣服、仏教、シャーマンのチャンゴ、神刃などがある。履物、食の食器、箸、匙などが日本のものと混ざりあっている。こうしたものを研究する人がいなく管理されていないようだ。電気も暗くて博物館より倉庫を見ているような印象である。

古文書館から 35 ミリの映像が発見されて韓国倭館のベネディクト修道院に送られ、保管されている。3 部作になっており、第 3 部は神父の伝道活動に関するものである。朝鮮の習俗や民間信仰などを実証する上に、極めて貴重な映像である。



「ソウル大所蔵の秋葉隆のガラス乾板写真」

秋葉隆（1898年～1954、文化人類学者）が1921年京城帝国大学に赴任、敗戦まで20年間、とくに朝鮮、現在中国東北部のシャーマニズム（巫俗）の研究に従事し、現地調査で撮影した写真である。1945年に、九州大学文学部教授、退官後は愛知大学文学部教授、文学部長を歴任した。彼の遺稿がパリで発見された。

### 映画「水筒と飯盒～ビルマ戦線戦場の記憶」

20万の兵士が亡くなった先の大戦でのビルマインパール作戦。山野には戦傷死よりも退却路での病死・餓死・溺死した兵の骸が連なり、そこは白骨街道とも呼ばれたという。この映画は、今や80代の老兵たちのビルマ戦線のすさまじい記憶を再現する。

### 『流転～追放の高麗人と日本のメロディー～』

在日韓国人作家の姜信子（きょう のぶこ）氏が南ロシアを訪ね、高麗人（コリョサラム）たちの現在を伝える。「高麗人」とは1910年の日韓合併以降、日本の支配下にあった朝鮮からロシア沿海州へと逃れながらも、スターリンにより中央アジアへ移住をしいられた人々である。ソ連崩壊後、独立した国々で高揚する民族主義のあおりを受け、南ロシアのロストフに流れ着いた。

この番組のテーマとなるのが、高麗人が口ずさむ『故郷山河』。移住を強いられた嘆きや悲しみが込められた、いわば民族の歌が意外にも、その原曲が日本海軍の軍楽隊長・田中穂積作曲の『美しき天然』というワルツにあったということはなんとという皮肉か（村上ディレクター）。番組ではこの歌の持つ記憶や歴史を辿りつつ、高麗人たちの生活を克明に描く。

姜信子氏は、日本の文化を懐かしむ高麗人老夫婦と出会ったエピソードも紹介。作品に登場するのは高麗人だけではない。チェチェンから逃れ高麗人の農場で働く人々が、自身の国情を語る。現地では、放送で紹介できない、変化する中央アジアの現状や、旧ソ時代が落とす影などを垣間見ることができる貴重な作品だ。（ナレーター／竹下景子、プロデューサー、ディレクター／村上雅通、制作／熊本放送）

## 校長先生 Директор Школы



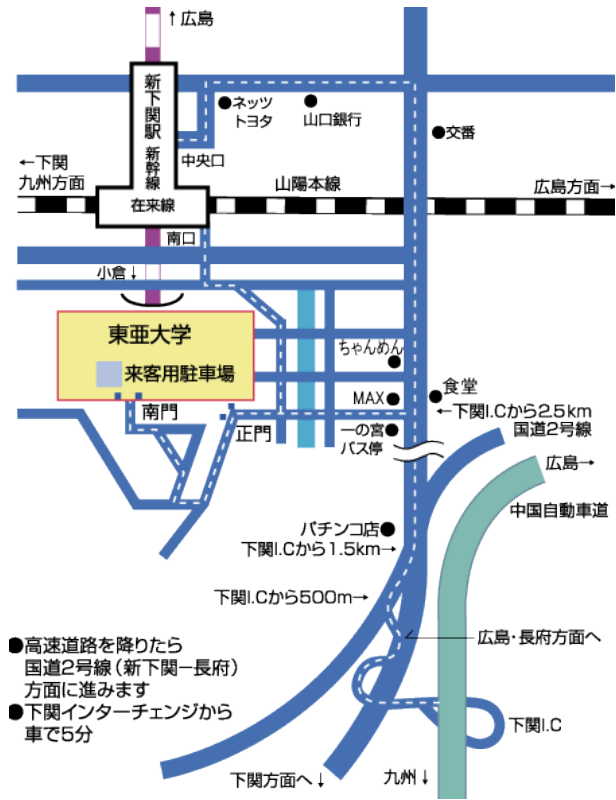
共同製作 ソン・シネマ社(カザフスタン) 東京シネマ新社(日本) 1999年7月完成  
NTSC ロシア語ナレーション 日本語スーパー版 38分

カザフスタンの高麗人映像作家ラウレンティエー・ソンが、自らHi-8カメラ駆使して、ウズベキスタン共和国タシケント州中部チルチク地区旧集団農場ボルシェヴィークの初中等学校の校長を務める同胞、ミハイル・パブロヴィッチ・ユンを密着取材したヒューマンドキュメント。

### 「サハリン日本人妻の別れ～日本・ロシア・そして韓国へ～」

2000年2、3月に400余世帯が韓国に永住帰国した。この過程をヴィジュアル・フォークロアの北村皆雄が映像記録した。離散家族会事務室で開かれた審議委員会の現場、韓国人会会長などが窓口で進める永住帰国者の中には、日本人妻が11人含まれていた。金静子氏は、強制移住されてサハリンに来た夫と、韓国へ永住帰国することを決めている。サハリン生まれの禰津英子さんは、永住帰国を考えるコリアンの夫に従うか、サハリンに永住することを決めている高齢の母(山形からの移住者)のために留まるか、悩んでいる。

今も尚続く離散家族の悲劇と在住サハリンの移住史が重く重なってくる。



【東亜大学所在地】

〒751-8503 山口県下関市一の宮学園町 2-1 0832-57-5179 (崔吉城)